



広島・長崎の原爆生存者の調査結果

100ミリシーベルト (mSv) での急性被ばくによる推定

被ばく時 年齢	性	被ばくがない時の 発がんリスク (A) (%)	被ばくによる 過剰な生涯リスク※ (B) (%)	被ばくがある時 の発がんリスク (A+B) (%)
10歳	男	30	2.1	32.1
	女	20	2.2	22.2
30歳	男	25	0.9	25.9
	女	19	1.1	20.1
50歳	男	20	0.3	20.3
	女	16	0.4	16.4

※被ばくした集団と被ばくしていない集団における生涯の間のがんで死亡する確率の差
10歳の男性が、被ばくしないときにはその後の生涯で**30%**の発がんの可能性があるが、
100mSv被ばくすると、被ばくにより**2.1%**増加し、**32.1%**になると推定される。

出典：Preston *et al.*, Radiat Res, 160, 381, 2003

被ばくによる過剰相対リスク（被ばくしていない集団に比べ、被ばくした集団ではどのくらいがん発症のリスクが増加したかを表す値）の大きさは、被ばく年齢によって異なります。

例えば 10 歳の男の子が、被ばくしないときにはその後の生涯で 30%の発がんの可能性がありますが、100 ミリシーベルト被ばくした場合は発がんリスクが 2.1%増加し、32.1%になると推定されています。

一方、50 歳の男性では、その後の生涯での発がんの可能性は 20%ですが、100 ミリシーベルト被ばくした場合の発がんリスクは 0.3%増加し、20.3%になると推定されています。

（関連ページ：上巻 P102、「被ばく時年齢とがんの種類」）

本資料への収録日：平成 25 年 3 月 31 日

改訂日：平成 27 年 3 月 31 日